

《小川町立4小学校創立150周年記念》

我が母校

思い出を語り

未来を語る

作文集

令和6年1月

小川町・小川町教育委員会

まえがき

明治維新により日本国は近代国家への仲間入りを始動いたしました。明治政府は明治6年に学制を發布し、小学校教育をスタートさせました。この時期に生まれたのが、町立八和田小学校、小川小学校、竹沢小学校、大河小学校の前身の学校です。

令和4年度には小川小学校と大河小学校が、令和5年度には八和田小学校と竹沢小学校が創立150周年を迎えました。

今から約50年前には、これらの小学校では、学校創立100周年を機に記念誌を編むなどの取り組みが行われました。

令和6年1月20日には、上記の4校小学校について、「小川町立小学校創立150周年記念式典」を開催いたします。その取組の一環として、4小学校を卒業された町民の皆様などから、「我が母校、思い出を語り、未来を語る」と題して、それぞれ方がそれぞれの学校で体験し経験したことなどについて作文を募集しましたところ、たくさんのご応募をいただきました。

ここに、ご応募いただきました作文を冊子にまとめさせていただきましたので、ご高覧いただき、それぞれの子供時代を思い出し懐かしみ、これからの小学校に思いをはせていただければ幸いです。

最後に、作文をお寄せいただきました皆様に感謝を申し上げ、まえがきといたします。

< 目 次 >

題 名	氏 名	ページ
・大河小学校古寺分校に入学	青木 タカ	… 1
・我が母校・思い出を語り・未来を語る	市川 修市	… 2
・大河小でのご縁	岩本 教裕	… 4
・下里分校の思い出	内野 和正	… 5
・本校 大河小学校(小3から)	大木 茂實	… 6
・辰巳会大河小学校との別れ	大木 茂實	… 7
・分教場はクレヨン画(3才～小2)	大下 柴門	… 8
・託児所(青山分教場 4才)	大下 柴門	… 9
・青山分教場(先生が来た 小2)	大下 柴門	…10
・みかん狩りと学校行事の思い出	大塚 頼司	…11
・本校通い(小3から)	大原 清	…12
・ミルク(脱脂粉乳)事件(小5 中村博一先生)	大原 清	…13
・竹沢小学校の思い出	尾上 邦男	…14
・給食とお手洗いの思い出	岡本 和子	…15
・みんな懐かしい思い出	恩田 幸江	…16
・小学校創立150周年記念、誠におめでとうございます	菊地 道夫	…17
・旧木造校舎 ひとり一人の思い出	小林 康雄	…18
・私の中の大河小学校	齋藤 幸子	…19
・大河小学校の思い出	酒井 征之	…20
・旧小川小学校は現役場の位置にありました	杉田 次郎	…21
・尽きない思い出	高橋 功人	…22
・出会いー私の小学生時代の先生ー	高橋 由喜江	…23
・思い出の下里分校	高橋 由美子	…24
・小学校時代(竹沢小学校)の思い出	高山 淳一	…25
・大河小学校の思い出	田中 純子	…26
・昭和24年4月入学	田端 せつ子	…27
・タイトル紙から皆さんへ	匿名希望	…28
・1960年代の竹沢小学校の四季	匿名希望	…29
・小川小学校の思い出	甫仮 良枝	…30
・八和田小学校の運動会の歌「青葉の笛」	細井 富夫	…31
・小学校生活での思い出	松本 恒夫	…33
・本校の大河小学校へ通うようになって	宮坂 初恵	…34
・小川町立小川小学校での心に残っている先生	持田 実	…35
・地域文集「むぎぶえ」の価値と意義	山口 謙一	…36
・小川小学校 器楽部の思い出	山下 景子	…37
・あぶ先生とコロッケ	吉田 弘	…38

掲載順：氏名50音順

大河小学校古寺分校に入学

青木 タカ

昭和二十三年四月敗戦から三年も経っていない時に古寺分校に入学致しました。

物資不足の只中での学校生活が始まりました。分校は一年生と二年生が一つの教室で担任は岩淵先生でした。先生は僧侶の為どこかに弔があると本校から佐々木先生が徒歩で少し遅れて来てくれました。

一年生の時の国語は「おはなをかざる みんないいこ なかよしこよし みんないいこ きれいなことば みんないいこ・・・」これが最初の授業でした。一学年下の一年の国語は何と「まことさん はなこさん はい」一年違っただけで、ずいぶんやさしくなったと感じたものです。

二年生の途中からだったと思いますが、ミルクの給食が始まり、週一回は味噌汁だったと思います。

体操の時間は無患子の木の枝に竹の棒が何本かくくりつけてあり、その竹棒に登ったり、分校の回りをまわり競走するのですが（運動場がないので）西のトイレの渡り廊下の所を駆ける時はとてもいやでした。本校は広い運動場があり、運動会の時などは地区対抗競走は古寺はいつも半周遅れでした。

春の遠足は、一、二年生は下里観音と決まっていた古寺から本校に集合し、大通りを歩いて下里観音にお参りし、帰りは下小川の八宮神社にお参りし、参道は青い下里石が敷きつめられ、両側には八重桜が咲き、とてもきれいだったことを思い出します。

通学は下駄の子がほとんどで、まれに靴を履いている子もいました。岩淵先生は慈悲深い先生で、下駄の鼻緒の切れた子には休み時間にすげてあげ、雪の日など先生のマントの中から児童が出てきて「いいなあ」とうらやましく思ったことも思い出です。未だ未だ沢山の分校の思い出はあるのですが、このくらいと致します。

我が母校・思い出を語り・未来を語る

昭和三十四年度 大河小学校卒業生
腰越地区 市川 修市

私は、昭和二十八年四月に大河小学校に入学しました。

校門を入ると正面には木造二階建ての本校舎校が見えます。校門の右側には大きな銀杏の木が植えられていて近くには講堂が建てられていました。

校庭裏の高台に根古屋線の線路があり石灰岩などを積んだ蒸気機関車が走っていました。

校舎は校庭正面の本校舎と棟ごとに三棟の校舎、小使室、給食棟と四ヶ所のトイレも別棟でそれぞれが渡り廊下で繋がっていました。別棟の校舎にそれぞれ昇降口が設けられていました。

校庭正面の校舎は職員室、図書室、音楽室、家庭科室、高学年の教室等などでした。北側には低学年の一、二年生の教室があり建物が老朽化しているため倒れないように丸太で支えられていました。

教室にはオルガンもありまして、教科は国語、算数、理科、社会、図工、音楽及び道徳です。生活指導として静かに廊下を歩くことも厳しく教えられました。

授業の始まりなどの合図を小使いさんが鐘を鳴らしながら廊下を歩いて知らせてくれました。

授業開始前に担任の先生が出欠確認をします。先生から名前が呼ばれると、みんな大きな声で「ハイ」と返事をしました。小学校三学年からなると三分校の腰越、古寺、青山の児童が本校に通い一緒に学びました。

講堂では各行事が行われました。入学式、卒業式、学芸会などに使われ、隣接する中学校の各行事や地域の諸事業など多目的用途にも使われていました。中学生の式典などで講堂を使用するときには児童各自が教室から椅子を運んできていました。

小学校時代の楽しかった思い出の中には遠足があります。一年生では徒歩で下里地区の観音様に行きました。リックサックに塩むすび、駄菓子、そして水筒の中は水でした。

裕福な家の子はバナナやチョコレートなどを持って来て食べていた姿がうらやましかったです。

二年、三年、四年生になると小川町駅から電車に乗って玉淀や吉見の百穴、天覧山に行きました。日常生活では電車には乗れない時代でしたので嬉しかったです。駅までは家族に送ってもらいました。

五年生の夏に、東京国立競技場で開催されたアジア大会を見学しました。多くの外国人の服装など大変驚きました。

六年生では修学旅行として江の島鎌倉を訪れました。食糧難ということもあり、児童は各自一合のお米を持参しました。宿泊場所は江の島の旅館で木造二階建てです。大広間に一つの布団に二人で寝ました。旅館に泊まるのは初めての経験です。嬉しくて就寝前には枕を投げあい先生に怒られました。

旅館での食事はお米のご飯です。毎日麦飯を食べていましたので美味しく何度もお

かわりをしました。

もう一つはお昼の給食です。各自でお弁当を持って行きます。

給食として脱脂粉乳が出されます。その味は今でも忘れません。ジュラルミンの器に注がれた底には、白っぽいかすが沢山残っていて甘みも無く口に合わず飲み干すのに苦慮しました。

また、年に数回全児童に配られた給食のコッペパンはみんな楽しみでした。普段食することも少なく「これはうんめいな！」と声が飛びまじっていましたが、配られたパンが大きいとか小さいとかで文句を言う児童もいるほどでした。

授業が終わると全児童で教室、廊下やトイレなどの掃除をします。雑巾は各自で持参します。そうじに手抜きがあると先生からやり直しをさせられたこともありました。

このような小学校時代でした。在学中の私の成績はほめられるものではありませんでしたが、自慢できることは皆勤賞を頂いたことです。

六十数年が過ぎた小学校前の県道は、砂利道で牛や馬が荷物を運んでいました。食べ物も少なく野山に実るものを食べて空腹をしのぐことができました。昨今は生活も豊かになり、昔のことが懐かしく感じられます。

大河小でのご縁

岩本 教裕

昭和四十六年、入学したばかりの四月か五月のとある日の休み時間のことです。長い渡り廊下に隔たれた運動場ではなく、一年生の昇降口から近い前庭で遊んでいました。その当時、第一校舎の前庭は先生方の駐車場としても利用されていました。友達の一人がとめてあった車の後ろに寄りかかると、なんとその車がゴロツと動くではありませんか。それを見た一年生の数名が周りに集まってきました。最初は「いけないんだ〜」だったのですが、いつの間にか「よいしょ、よいしょ」とみんなで車を押して数メートル動かし、それをまた押して元の位置に戻す遊びになっていました。

その様子は職員室から丸見えで、当然「その一年生、すぐに来なさい。」ということになり、職員室にずらりと一列に並んで、金井恭市教頭先生からご指導を頂きました。初めて入った職員室です。私は物珍しくてキョロキョロと部屋の中の様子を見てしまいました。すると「君はいったいどこを見ているんだ。」と、さらに叱られてしまいました。

さて、私は成人して教職に就き、八和田小学校と竹沢小学校に勤めた後、東松山市へと転勤になりました。その後に勤務先となった青鳥小学校の校長室で、金井教頭先生のお写真と再会することになります。青鳥小学校の初代校長が金井先生で、歴代校長の写真額の前頭でその顔を拝見し、たいへん懐かしく思いました。ところがそれだけではありませんでした。当時私が主担当として取り組んでいた裸足教育を青鳥小学校で始められたのが金井先生でした。裸足教育の研究発表をする関係で連絡を取った際、御自宅までお邪魔してお話を伺う機会を得ることができ、人の縁を感じました。この他にも、大河小学校でお世話になった先生方とは様々なところでつながりをもちましたので、多少なりとも感謝の気持ちを伝えることもできました。

現在教職に就く身として、自分が大河小学校で様々なことを教わったご恩を、次の時代を担っていく子供たちを育てることによって返していく思いで教員をしています。

また、別件となりますが、現在私が住職を務めている飯田の長福寺は、明治十二年からの六年間、大河小学校の前身のひとつでもある兜川学校の校舎として使用された歴史があり、こちらも縁あるものと思っております。

下里分校の思い出

内野 和正

小学校6年間の中で下里分校で過ごした4年間が同じクラスメイト、長く担任をしていただいた山下先生がいたからこそその思い出です。

そんな中、影で支えてくれた給食のおばさんにもお世話になりました。給食は家で食べた事のないものが色々でできました。私は楽しみにしていて毎日のように、おばさんのところに休み時間になると「今日の給食は何？」と聞きに行きました。その後大きくなり、おばさんに会った時に「和ちゃんは、よく聞きに来たね。」と言われたのが懐かしい思い出です。

また、4月と10月に観音様の縁日があり、授業をしていると教室の外から音楽が流れてきて、その賑やかな様子が伝わってくると教室全体がわさわさして授業にならず、午後は休みになって縁日に行ったものでした。今は、観音様も当時の賑いは、無くなってしまい寂しいかぎりです。

本校 大河小学校(小3から)

大木 茂實

校門の樺の木と銀杏の木は、四季折々の表情で俺達に「おはよう・あばよ」と言ってくれた。正面に二階建ての木造校舎があり、その左手に一、二年生用の平屋の校舎、本校舎の裏に小番室とちいさい校舎、さらにその裏側に平屋で長い長い古い校舎があった。

そして校門の右手に、増尾の酒井大尽が寄附をした立派な講堂があり、校内唯一のピアノが置いてあり、高学年の音楽は椅子だけでそこで受けた。冬にもストーブもなく先生も俺達も、しもやけやあかぎれの手をこすりこすり頑張った。

職員室は、本校舎玄関の左手にあり、廊下に大きな太鼓が掛けてあり、ドンちゃんこと「坪井教頭先生」が職員会議の始まる沙汰のため、それこそ腹をつん出しながらドンドンと叩くのが日課だった。ちなみに校長は仁王様こと須藤校長、菅谷の鎌形からの自転車通い。

俺達は、どこの廊下も渡り廊下も、それこそ全力疾走だったが、さすがの腕白小僧も大太鼓の掛けられた職員室の廊下の前だけは、シズシズと歩いた。その本校舎と酒井大尽が寄附した講堂以外は、それこそ戦前の建物で教室も廊下も、おんぼろで割れたガラスもすぐ替えられずで、板やボール紙で急場をしのいだほどだった。

教室は、俺達が粉糠雑巾で毎日、一生懸命磨いて掃除をしたが、授業中に鼠がでたり蚤やシラミやダニがいた。そこで時にDDTの散布を俺たちの頭までやられた。今の携帯用の空気入れの親玉のようなもので、ぐりぐり頭や御河童頭に「シュツ シュツ」とかけられ、真白坊主にされた。皆んなが咳き込んだりしながら手拭で頬かぶりや姉さんかぶりをして下校した。

しかし、あの懐かしい、鼻たらしで立たされた教室はもうない。今の近代的な校舎に生まれ変わる直前に、俺達同級生は、旧校舎を忍ぶ集いを催した。

辰巳会大河小学校との別れ

大木 茂實

生まれ年まわりで同窓会は辰巳会と言ひ、四年に一回オリンピックの翌年にワイワイ・ガヤガヤ集まる、皆んないい奴ばかりだ。

加藤、峰岸、佐藤に大島、亥子ちゃん、恒ちゃん、要んちゃんなど、地元の連中約二十人は毎年旅行を含めて年数回膝を交えている。

私は、昭和五十一年から地元会員となり、五十六年に会長を引き受け、連中との肝入りで五十七年春浅し三月二十八日に懐かしい学舎の前に、六年卒業時の記念写真と同じように鎮座して又記念撮影を挙行し、間もなく解体される古い校舎との別れを惜しんだ。

その後、懇親会場を隣の大河公民館に移し、それはそれは賑やかなパーティーとなった。

勿論、当時の恩師各位もご光臨いただき、ご尊顔が会場に華を添えた。

千島春吉、中村博一、新井正子、馬場光子

以上四名の先生方と会員五十八人・男三十四人・女二十四人（当時の卒業生百六十四人）のにこやかな顔・顔・顔の波のうねり。

テーブルには、峰岸光伸スーパー仕出しのパール皿のオードブルが並び、流行の生ビールの壺缶が飛びかい、昔話に花が咲き、誰も彼もあの頃はああだった、こうだった、そうだったと、だっただったの同級会は時の果てるのをしばし打ち忘れたほどの巻でした。

朋のありて遠方より来たり 又楽しからずやの誰れもの体の芯に刻まれた思い出に残る有意義なひと時だった。

皆んな 又逢うベェー 本当に有難うございました。

(昭和五十七年回顧)

分教場はクレヨン画(3才~小2)

大下 柴門

今、走馬灯の如く甦る。青山分教場は、淡いクレヨン画の世界だ！

俺の育った時代は、負け戦の荒廃たる暗雲立ち込める世代だった。でも、近所付き合いや人情の機微は、現代よりはるかに勝るものがあった。食う物も、着る物もない、その日暮らしの最中でも、傷痕軍人の飴売りが来るとお婆ちゃんが、釜底の麦飯のオニギリに自家製の味噌を塗りたくり、これを！と分け与えた。軍人は無言で、それを貪り涙に涙してトボウグチの大敷居に南を向いて越かけた。追っかけ、お婆ちゃんが黙ってお茶のチャンコを置いた。

猫の手も借りたい農繁期になると、それこそ近所の年寄りや子供まで駆り出されて生きるため国をあげて復興のため、朝は朝星から、夜は夜鍋まで息を休めることなく働いた。

この時期になると、分教場が託児所となり、すなわち一・二年生の兄ちゃん姉ちゃんが弟や妹の手を引いて登校することが許された数月だった。野良仕事で働く父母達の手が、少しでも助かればという教育現場の配慮であった。

俺は、円城寺境内の一隅を借りた青山分教場に昭和二十一年に入学。一・二年生同室の複式学級で全員で四十人位か、教室にラジオもストーブも無かったが、優しい榎戸先生がいつも笑顔で居た。

いわゆる「産めよ・殖やせよ」の国策奨励金の世代で、五・六人の兄弟は普通で学用品なども兄弟、姉妹、友人と仲良く貸し借りしあって使った。ノートも画用紙も満足なものでは無かったが、それでも藁半紙に幼心に夢を書いた。それこそ夢中だった・・・。

一年坊主の国語の本の一ページは「みんないいこ さいたさいた さくらがさいた おはなをかざる みんないいこ」だった。

カット書きの男の子と女の子の絵を今でも忘れて居る。もちろん白黒だ。三つ違いの姉ちゃんがいたので、入学前にずい分覚えた・・・。

懐かしい分教場は、確か昭和五十四年廃校となった。

託児所(青山分教場 4才)

大下 柴門

農繁期には 託児所通い
いつも一緒に 姉ちゃんと
ブランコ 鉄棒 すべり台
俺の好きな ものばかり

ブランコ ぶらぶら やってると
腕自小僧が やって来て
足を引っぱり 引き降ろす
それでも 明日は 又行きてい

鉄棒 ゆらゆら やってると
鼻たれ小僧が 表れて
腕をはたいて 振り落とす
それでも 明日は 早起きす

すべり台 すいすい やってると
いたずら小僧が そばに来て
尻をオッペし 突き飛ばす
それでも 明日は 又ねだみ

ワァワァ大声 泣いてると
かけ足 姉ちゃん 飛んで来て
服をはたいて 鼻かんで
だから 明日も ついて行く

青山分教場(先生が来た 小2)

大下 柴門

皆んな集まれえー 校門に
セッセッ先生がおい出になりましたあ～
ちゅうどー ちゅうどー ちゅエ ちゅエ
ちゅうど～ (全員歌いながら集まる)

榎戸先生 もんぺで 自転車
朝日に ペダルが 光ってる
門の両側 一年二年
元気な あいさつ
お早ようございます

桜の散った 石の段
それ押せ 後押せ 先生の自転車
慰問袋が ゆらゆら ハンドル
毎朝 笑顔で
お早ようございます

先生がお出になりましたア～
ちゅうどー ちゅうどー ちゅエ ちゅエ
ちゅうど～

みかん狩りと学校行事の思い出

大塚 頼司

小学3年生（昭和30年）の二学期に入り、社会科の授業で担任の武田孝雄先生から、当時「みかんができるのは、埼玉県が北限である。」と教えていただきました。そこで、帰宅し父母や近所の人に尋ね、「この近辺は越生の大附というところに、福みかん（正式名称：福来（フクレ）みかん）があるよ」と教えられました。

次の日、登校し皆と話し合い、ハイキングを計画し、先生が快く賛成して下さい、11月3日の文化の日の休日に出かけることに決まりました。当日は15～6名が参加し、弁当を持参で、小川町駅から八高線に乗り明覚駅で下車し、大附のみかん農家まで田舎道を歩き、日当たりのよい場所に福みかんが鮮やかに実っているのを見ながら、楽しく会話し目的の農家に着きました。みかん畑で遊び、弁当を食べ、帰りに福みかんがいっぱい付いている枝をいただき、大事に持ち帰ったことを鮮明に記憶しております。小学3年生の秋の楽しい思い出です。

また、大河小学校と大河中学校で、共用していた立派な講堂での思い出です。中学1年生（昭和34年）の時に、学芸会でクイズ大会の回答者に選出されました。クイズ大会はNHKラジオの①ここはどこでしょう ②二十の扉 ③私は誰でしょうの3部門です。企画、実行された担当の先生は小澤禄郎先生でした。

クイズ大会の最初は、「ここはどこでしょう」から始まりました。

NHKのラジオでは毎週ごとに、金曜日の午後7時30分から、「ここはどこ、どこ、どこでしょう。あなたの街……」と、メロディー流れて司会者が登場するのを記憶しています。

「ここはどこでしょう」のクイズ番組は、3つのヒントで都市名（場所）をあてる仕組みです。

司会者（Sさん）が、1問目の第1ヒントを読み上げられ、私はわかったあーと感じ、手を挙げ、即座に「函館市」と回答し、司会者から「正解」と告げられ、会場からたくさんの拍手をいただいたのも、大きな講堂での懐かしい思い出です。

本校通い(小3から)

大原 清

三年生からは、二kmの道程を本校に通った。下駄か草履履きで、本校近くの者は裸足で来て足洗い場から教室へ入る者もいた。

砂利道を道草を食い食い、青梅、ドドメ、グミ、スカンポ、イタドリ、白茅、柿、栗、ユスランメ、イチジク、ザクロなど。。。。。

雨上がりは、番傘を開いてころがしたりし、特には馬引きの運送者にぶら下がったりして。。。。。

道中が長いので、たまに鼻緒が切れると上級生が桑の木の皮で挿げてくれた。初めてゴムの草履をはいたときは、天にも昇る感激だった。

上級生になった下校時には、川のルートと山のルートで道草食いをした。まず川のルートは、増尾の酒井河原で遊び、トクイ門日の出橋附近で泳ぎ、栃本堰を経て町を通過して馬橋下で遊び帰るコース。。。。。

山のルートは、日の出橋から卯月花に入り、現在のゴルフ場をぬけて峠を越え愛宕神社下の一本松に出るコース。。。。。

あだ名が「無手っ法」の俺にとっては、冒険心あふれる山川コースで陽気の良い日は、二時間、三時間の半日ごとで、手足はヒビ、アカギレに切り傷だらけで、それこそ鳥の足ほどにきたなく、親に「雉が年貢を納めにくるぞ」と見憎いと言われるほどだった。

小四年から、冬期には弁当が大きな鉄の網棚で温められ、こうこうの匂いが廊下までブンプンした。それから、鉄瓶で白湯一杯のあったけえ～振る舞いがありがたかった。。。。。

それもそのはず、その湯や弁当を温める燃やし木は、小五、六年の生徒とPTAの父母が大河生産森林組合の松郷峠の山から、勤労奉仕で一束ずつ背負って備蓄したものだった。

ニュームカップ一杯の脱脂粉乳のミルク給食が始まったのが小五からだ。戦後の物資難で軍隊下りの鞆や服が貧しい子に配給され、栄養補給のために肝油を飲まされた。

小三の時だが、昼食になると家に帰る者、パン屋に配給券でコッペパンを買いに行く者、何もしないで机にうづくまる者もいた。

俺はコッペパンがなんとも羨ましかったが、机にうづくまる奴を思えばしかたなかった。それも皆んなの弁当は、麦飯、麦米半々、さつまいも等。。。。。

俺と恒やんの弁当だけが白米だった。

(訳)

自宅では、ひきわり飯、さつまいも飯だったが、父が公務員だったので弁当は囲炉裏の隅で鍋で別炊きして持たせてくれた。ありがて～え～ことだった。

ミルク(脱脂粉乳)事件(小五 中村博一先生)

大原 清

先生が怒鳴った
ミルクを飲まない者は立てえー
俺も皆んなも オズオズ立った
シーンとなった教室
皆んなの口が への字になった
アカギレの足が
やけに 冷てえー

先生が怒った
そんなやつは 表に出ろー
利しゃんが出 俺も後を追った
誰もいない廊下
暗い下駄箱の渡り板
利しゃんの影が
消えた サァーとー

俺がさげんだ
利しゃん 待ってくれえー
川っぱらまで イッキに駆けた
利しゃんを捕まえて
すすり泣き泣き
笠山を見て謝りながら
とぼとぼ歩いた

友達が呼んだ
先生が一人で 待っているぞ
校庭の隅で 手を取り合った
掃除の済んだ 教室
並んだ二つの カップ
腹が減ったので
飲んだ いっきに一

先生が笑った
坊主頭を 両手で押さえて
出て行った 勇気を誉められ
氷るようは 洗濯水
先生の足袋洗いの 仕置一
ヒビ入りの手が
後から 温とかった一

※当時、中村先生は窓先に二宮金次郎の銅像があった小さな部屋に寄宿していた。

～私が県庁職員退職後、天下り団体役員で総合福祉センター「パトリア」に出向くことがあり、先生の名指しで後を受け、理事・会長として十二年勤めた。

今ゆるりと回る走馬灯に浮かぶ恩師の論しがある。ユーターンをして二十五年ぶりの大河地区民運動会での閉会の挨拶、中村博一校長先生！ 胸をドキドキしながら聴きました。

「予定していたことが天候に恵まれ、予定どおり出来たことはこんなに嬉しいことはない」

な～んダ、あたりまえと思った！

だがその後、自分が管理職となり富士山の頭上は何時も烈風なんだ。人々を総括するには、艱難辛苦に出合うんだと胸に刻んで座右の銘とした。

竹沢小学校の思い出

昭和36年卒業 尾上 邦男

昭和62年実施のPTA研修旅行(益子方面)に役員で参加し、この時の校長先生の話に「どんな景気対策より子供達を増やすことが最大の対策」この言葉が今、実感とし聞こえてくる。

竹沢小学校を昭和36年に卒業し、今消え去ろうとする母校に、様々な思い出がよみがえる。先ず第一に思い出すのは、昭和33年7月16日校舎改築竣工された。当時改築の為に教室、授業時間の確保等に関係者、先生方は非常に苦勞されたと思われるが、今は無き、公民館(旧竹沢村役場)も教室として使用された。

授業も午前、午後の2部に分かれて実施された。昼での入れ替え登下校となり、遊ぶ時間が増え子供心にて喜んだ。公民館の火のみ櫓に登ったり降りたり、12時を知らせるサイレンが鳴りビックリした。今では危険極まりないが、これがまたスリルであり、おもしろさでもあった。また、昼食後交代の為に午後教室に入ると弁当その他の何にともしえない異様な匂いが思い出された。

4、5、6年は沼尻先生の担任で、自転車での円良田湖までサイクリング、現在と違い性能も悪く舗装の無い砂利道だったが、交通量が少ないとはいえ、先生は心配の連続だったと思う。体力的にきついが励ましあい落伍者も無く、湖面のボートを見学し、土手で記念写真を撮った。又、笠山サイクリングでは大河矢切橋を渡り、先生の家立ち寄り御茶、せんべいを頂き食べて笠山へと自転車をこいだ。登り道はさすがに自転車では無理の為にふもとの家に預け徒歩で急な道を登ったが、山頂までは無理があり途中で引き返した。大きくなったらいつか山頂を目指したいと思った。道路事情も悪く何時パンクするか心配よりも、新天地を目指すワクワクの気持ちが優ったサイクリングであった。

季節の楽しみとしては、秋になると校外授業の一環としてクラスで山に入りキノコ採り。当時は山の手入れが良くされていて、バケツに多数採れた。キノコ採りよりも山遊びが優先された。採れたと声が響くと集まり食用、毒などワイワイガヤガヤと喋り楽しい時間を過ごした。採れたキノコは職員室へ持ち込んだが、その後の取り扱いについては興味なし、思い出だけが残った。

給食とお手洗いの思い出

岡本 和子

私は昭和27年に小川小学校に入学しました。思い出すのが給食の事、当時地区ごとにお母さんたちが給食のお手伝いに来ていました。手ぬぐいをかぶってカップウ着姿です。今日はうちの母親が来ていると思うとうれしくて、そわそわと給食室のそばまで見に行ったものです。脱脂粉乳を飲んだ世代でもあります。きれいだという子も多かったのですが、私は平気でした。母乳が少なくて、よそのお母さんの乳を飲んだり、やぎの乳を飲んでいたのでしょうか？特にあずきの入った小倉ミルクがおいしくて大好きでした。

メニューで待ちどおしかったのが、うずら豆の煮たのとミソ汁でした。今でも食べてみたいと思っているのが、名前だけはよく覚えているのですが、どんなものだったかトーヤーチャオロースです。もやしが入っていたような気がします。

中庭で遊んでいると、いいにおいと白い湯けむりが給食室から上がっていた光景がはっきり目に浮かびます。

あと、印象に残っているのが、6年生の時、出来た水洗便所です。明るくて白い建物でした。くさりをつまむと水が「ジャァー」と流れました。当時のお手洗いには暗くてハエがくっついて、ハエが来ないように縄ののれんがつるしてありました。教室から遠かったけれど、その新しいトイレまで、わざわざ友達と連れだって休み時間になると行ったものです。

今は小川町役場やリリックになってしまったけれど、小川小学校のすみずみまでなつかしく思い出す事が出来ます。

みんな懐かしい思い出

恩田 幸江

今から77年前の事です、小学校は今の役場のあたりでしょうか、学校の正門は石だったのでしょうか、両脇に同じ様に建っていました。上は平らで数人上がれる程でした。両脇は1m位の高さの植え込みがあり、ひばの木が植えてありました。先生の目を盗み上がって遊んだりした事、誰でも一度はあると思います。

校庭を真っすぐ行くと何段かの階段で先生方はそこから上がった様な気がします。右側に職員室があり、南側には二宮金次郎さんの銅像がありました。次の校舎へ行く前、ガタガタいう渡り廊下を行くと右側が給食室、左側が小番さんの桜井さんという方がいました。近くにウサギ小屋があり、役の人が面倒見ていました。

3、4年になると校庭の左側にトイレがあり、渡り廊下をガタガタ行くと校庭の一番左側に教室があったんです。受け持ちの先生は、私は成見加津先生だったね。松本先生は他のクラスだったと思うけど、いました。なぜか2人の先生の職員室もありました。教室より一段下がった所でした。成見先生は美人で優しくて憧れの人でした。

結婚して働き始めた頃、先生にバツタリ会いました。主人が倒れて働いている話から「缶に入ったチョコレートを子供さんに」と数回送ってくれた事、思い出しました。

運動会には「カモメの水兵さん」を踊り、かつぼう着をして母が応援してくれました。私も一生懸命踊り、自分でも良く出来たと満足でした。着物で真白なかつぼう着がとても嬉しかったんです。

遠足で釜伏せ峠へ。低学年時、校庭に並びDDTを注入されました。髪が色が真っくろでしたが、今は真っ白になってます。

でも、その事がイヤだと思った事は有りません。大きい楠木が庭にあり、この暑い夏だったら大活躍だったでしょう。「高くそびえて動きなく その笠山は我が心」大好きな小学校の校歌です。

小学校創立150周年記念、誠におめでとうございます

菊地 道夫

私の母校である小川小学校で過ごした6年間は、私にとりまして非常に充実した学校生活だったといまさらながら思っています。もちろん友とのコミュニケーションは楽しかったし、強く心の中に残っておりますが、特に印象に残っておりますのは、どちらかと言うとスポーツの苦手だった私は、自分の創作した作品を発表することの出来る「文化祭」という文科系のイベントに心動かされたものでした。

父は画家なので、私の創った作品にアドバイスをくれたりして、そんな時間が実に魅力的で素晴らしい毎日だった・・・と思っています。私のその後の創作活動（詩の創作が中心です）にとっても生きているな、とふつつかながら感じ入ります。

今後のますますの教育文化発展をご期待申し上げます。

旧木造校舎 ひとり一人の思い出

小林 康雄

岳父吉田勝治は昭和24年の春、新任教員として大河小に赴任した。岳父と交わした話の中で「大河小の（木造）校舎は素晴らしい校舎だった。一部でも何とか保存できなかったものかと悔やまれる。講堂西側のプラタナスは教え子達と植えたんだよ」の思い出話は、強く印象に残っている。

その理由の一つは、（記憶に誤りがなければ）私の母がその校舎で学び、高等科を最初に卒業した学年が自分達であったと懐かしそうに話していた記憶があったからである。当時大河小の校舎は県下一の校舎として名を馳せていたと聞く。比して中学校（旧大河中）の校舎は、戦後の資材調達困難な中での安普請であったため傷みが早く、いわゆる「ボロ校舎」の汚名を口にしていた記憶もある。事実私達が六年生で利用していたときに、二階の窓に寄りかかったら窓枠ごと落下する事故（幸い人の落下はなかった）が起きたもした。プラタナスの思い出は、オナガ鳥が毎年のように営巣し、ギャーギャーとうるさく鳴いていたが、あるとき雛が落ちてきたので職員室に持ち込み、雛の世話を先生にせがんだところ、先生が練り餌で育てる方法を伝授してくれた記憶がある。その後雛が無事巣立ったか否かの記憶はないが、秋になると実ったボンボンの玉を振り回して遊んだ記憶が蘇る。前校舎二階西にあった畳敷の大教室も印象深い。まさに凜とした静謐な場を醸し出していた。校舎になぜ畳敷の教室があるのか子供心に疑問を抱いた自分であったが、戦前は修身や礼儀作法、裁縫の授業等が行われていたことを知ると、「修身」など心新たにあの畳敷の教室で受講してみたい気分が湧いてくる自分である。

一年生から四年生までは裏校舎（平屋校舎）であった。二年生の時、掃除の時間に床板に空いていた節穴から鉛筆を落とし込み、その鉛筆を縁の下に潜り込んで拾って帰ってくるなど、今では考えられないのん気な遊びに興じていたものだった。四年生の冬の朝、雪解けの根古屋線を走る蒸気機関車が途中で立ち往生し、バックしてから再挑戦で勢いつけて登り上がる姿に声援を送ったのは、裏校舎の廊下の窓からであった。私が初めて前校舎に入ったのは五年生の時だった。確か当時初めてワックスなるものを床に塗る作業をやったと記憶している。オレンジ色で半練りの油性ワックスは、床をピカピカにするだけでなくツルツルにもしてしまい、廊下を滑って遊んだ楽しい記憶がある。その他、職員室廊下の上に吊り下げられていた大太鼓は、果たして私の在学中には一度もその音を響かせたことはなかった。そして60年前、前校舎正面玄関で撮った1年1組の入学写真は、今赤茶けたセピア色を放っている。

大河小学校旧校舎にまつわる私の母、岳父そして私の思い出を綴ってみた。半世紀も前の記憶であることから、怪しい部分も無いとは言えないが、母校の思い出を語り残す機会に参加できたことを嬉しく思う。私の思い出は私ひとりだけが知る思い出だが、一人一人の思い出をこうして集めれば、大河小学校150年の総体が少しは見えてくるのではないかと期待している。

私の中の大河小学校

齋藤 幸子

私は、大河小学校に昭和44年4月から昭和50年3月まで在籍しました。

私が記憶する当時の大河小学校の特徴を、思い出すとともに紹介いたします。

はじめに、何と言っても、長い渡り廊下です。第1校舎と広いグラウンドを挟んで第2・第3校舎へ続く渡り廊下は、学校の敷地内を端から端まで結ぶ回廊のようでした。この渡り廊下は近隣どころか、県内にも類を見ない長さで教えられたことを覚えています。

次は、講堂です。現在の体育館というものは無かったため、卒業式や音楽発表会などは講堂で行われました。木造のモダンな建築だったように記憶しています。当時から歌や合奏の発表会が催され、文化的にも高い教育がされていました。卒業式では、卒業生は男女1人ずつ2人で、一礼して入場するのですが、自分の順番が来るのを、すごく緊張して待っていたのを覚えています。

そして、交通公園です。プールの近くにあったように思います。毎朝、通学班での登校時、交通公園を一回りしてから、それぞれの学年の校舎へに行くというのが慣例でした。安全教育の一環だったのでしょうか。信号機の見方や横断歩道の渡り方を再度確認する場所で、今思えば自動車教習所の練習用コースのようなものでした。

最後は運動会の演目の鼓笛隊です。鍵盤ハーモニカ・縦笛・太鼓・バトン等、指揮者を先頭に隊を組んで演奏しながら行進するのですが、全てにおいて何度も何度も厳しく指導されました。でも本番では水色のベレー帽や白いハイソックス、女子は白い短いスカートを身に着け、特別な感じにドキドキワクワクしたことが思い出されます。

旧大河小学校の情景は、私の中に鮮明に残っています。木造校舎の教室や廊下・階段が磨き上げられて光っていたこと、校庭の樹木も剪定され、遊具も沢山あり良く走り回ったこと、皆さんから愛されたきれいな学校だったと思います。

大河小学校の思い出

酒井 征之

私が大河小学校に入学した昭和25年には小学校の裏を、根古屋線の蒸気機関車が通っていました。線路の土手で入学記念写真を撮影したことがよみがえります。校長先生は横山安太郎先生、1年3組の担任は、森田いく先生で若くてやさしい先生でした。

校庭の南側には腰越用水が流れ、満開桜の花が私達を迎えてくれました。

当時の給食も忘れることができません。戦後の食糧不足の時代です。ミルクは脱脂粉乳で、みそ汁の給食でした。みそ汁に入れる野菜は、家でとれたものを子供たちが持ち寄ったため、季節により偏っていましたが、PTAのお母さん達が調理してくれました。

1年生の遠足は下里の観音様、6年生の修学旅行は江の島と鎌倉で、岩本楼に泊まりました。ここでの思い出は深く、その後同窓会で岩本楼に宿泊して小学生に戻り楽しく語り合いました。

また、大河小学校にはPTAの役員として、昭和54年から8年間関わらせてもらう間に、新校舎・体育館・校庭が完成しました。

記念事業として学校環境整備『大河小学校のあゆみ』の編さん、落成祝賀会の開催に先輩たちと一緒に汗を流し、その後「けやき会」として交流が続いています。

その中でも学校誌の編さんは資料収集の家庭で、大河小学校の学校に関する多くのことが明らかになりました。昭和12年に大講堂を寄贈した酒井要五郎氏の寄付額が弐万九百円であったこと、束ねられた感謝状から各方面に多額の寄付を続けた地域の功労者であることが改めて知りました。

校庭の大欖についても植えた方が長く不明でしたが、PTA保険会の資料を探していると「広報おおかわ」が出てきて、酒井忠治氏が入学した大正3年に、大河尋常高等小学校に勤務していた市川鷲太郎氏が植えたことが分かりました。

PTA保険会の行事でも忘れられないことがあります。毎年PTAを対象に父母学級の後に教育講演会が開催されていました。ある年、地域の皆さんにお世話になっているから講演会を拡大しようということになりました。PTA保険会の助成で、TBSアナウンサーの榎本勝起氏「えのさん」が大河小学校にやって来て大盛況でした。学校は地域の中心です。150年のあゆみを大切にしたいと願っています。

旧小川小学校は現役場の位置にありました

杉田 次郎

旧小川小学校は現役場の位置にありました。1列目 職員室、音楽室 2列目 1～4年生の校舎 3列目は、5、6年生の校舎（新校舎）

①昭和33年小川町立小川小学校卒業

ア、修学旅行先 江の島・鎌倉方面

運動会 6年生の時、場内整理係 5、6年の時 新校舎編入

イ、一年生担任 渡辺富美先生、3～4年担任 関口とし子先生

5～6年生担任 四方田光恵先生、とても優しくかったです。

3～4年担任の関口先生は、休み時間に授乳していました。

ウ、地区子供会で夏休み体験（スイカ割り、ゲーム、むぎ茶（おいしかった）

地区子供会で夏祭り、神輿体験、やぐらでたいこ体験

エ、通学班で登校した。（通学班同学年3人、地区で同級生8人）

オ、卒業式は4年生、5年生が卒業生に混じり出席

尽きない思い出

高橋 功人

入学当時の校長先生は内田家寿先生で、小学1年生にとってはまるで入道雲のような体形のやさしい先生でした。2年生の時に廊下を走っていて梅干をもらい、その痛さに少し涙したことを思い出します。

子供達の遊びはドッジボールが盛んでした。授業終了を告げる鐘がカラン・カラン鳴ると校庭に飛び出し、ぞろぞろ並んで足でコートラインを引き夢中で相手チームと闘いました。一時、跳び箱あそびが流行り、重い跳び箱を4～5人で昇降口から運び出し、踏切板をどこまで離して跳べるかを競いました。跳び箱を縦に二台並べたり8段までの高さを競ったり、大桶の回りで遊んだ思い出は尽きません。

5年・6年の担任は青木秀先生でした。小川班の音楽会に「もみじ」の2部合唱で出場させていただき成績もよかったように思います。チーム対抗のポートボール大会がありました。当時の子供達は、どんな行事にも夢中になって取り組んでいたように思います。

運動会は、八和田小中学校が合同で実施していました。中学男子生徒の組体操や女子生徒による「直実節」は会場全体が静まり返りました。花形は地区対抗（当時は部落対抗と呼んでいた）リレーで、現在と同様にプログラムの最後を飾りました。リレー選手は各地区のスターです。5・6年生がリーダーとなり同学年を競わせて代表を決めました。私は常に予備選手でした。

プールが完成したのは昭和40年夏だったと思います。当時の八和田地区の子供達は、地域の農業用ため池で先輩方の手ほどきにより泳ぎを覚えました。思えば危険極まりないことです。私は、低学年の時に地元の沼でおぼれかけて先輩に助け出されて現在があります。そうした経験を経て多くの子供達は自己流で何メートルかは泳げました。本格的な水泳指導は中学生になってからでした。

修学旅行はバスで江の島です。保護者の一人が子供達と一緒に写真に納まっていますので同行していたのでしょう。海を初めて見る子も多かったと思います。

卒業式は、教室2つ分の「講堂」で行いました。保護者の中には和装の母親が少なくありませんでした。卒業式後の悩みは、隣の中学に入学する前に、坊主頭になることです。女子はショートカット、男子は坊主頭が決まりでした。3月中に床屋に行き坊主頭になりお互いを笑い合いました。私の6年間の担任は、塚越マサ、関根治子、恒木正雄、四方田馨、青木秀先生でした。感謝しかありません。私は間もなく70歳になります。

出会い –私の小学生時代の先生–

高橋 由喜江

私は小川小学校で1961年から1964年の4年間担任していただいた先生のことを忘れられません。

先生は音楽を通して学級経営をしたいという思いで、クラス独自の器楽合奏を行い、日々、授業や放課後に練習をしてくださいました。

小学校3年生の時です。小川赤十字病院に入院していた同級生を励ますために、この病院の玄関で「カッコー・ワルツ」をはじめ、3曲を演奏しました。そして、そのことがよい話題となり毎日新聞に掲載されました。

4年生では、学校新聞で校長先生が私たちのクラスを次のように評価してくださいました。「音楽の好きな人たちだけが集まったわけでもないこのクラスの人たちが、心を合わせて仲良く協力し合っている。この学級は小川小学校の名誉ではなかろうか。私たちはこの小さな楽団を尊敬し、このクラスに負けないクラスづくりをしよう」と。そして、この「カッコー・ワルツ」の曲ではじめてTBS子ども音楽コンクールに参加し、入賞してTBSラジオで放送されました。講師の先生に「4年生にしては上出来でした」と褒めていただいたようです。

5年生になるとクラス替えはあったものの、器楽合奏は続けられていました。日々の練習が私たちに力を与え、この頃になると難曲にもチャレンジすることができ、先生はウィーンのワルツを選曲してくださいました。曲目は「ドナウ河のさざ波」と「美しき青きドナウ」です。私たちは小川小学校の講堂で行われた成人祝賀会でこの大曲を演奏することができました。

6年生では、TBS子ども音楽コンクール出場も常連となり、2度の東日本決勝大会出場を果たしました。特に思い出に残っている大会は、2月7日東京の文京公会堂で行われたTBS子ども音楽コンクール東日本決勝大会です。当時は大雪で、保護者や地域の皆さんに大きく支えていただきました。車酔いの激しい人は保護者が引率し、他の人は小川赤十字病院行きの十字架のついたバスで行き、楽器類はお店の大型トラックで運ばれていました。この日、私たちは合格賞を取り、記念のバッジと小さなアルバムをいただきました。後日、私たちの演奏が入っているレコードを購入し、その演奏を今でも時々聞いています。

最後に、一言でクラス合奏と言っても、先生は私たち43人の楽譜をすべて写譜されました。私たちのためにどれほど時間を費やしたのかはわかり知れません。その楽譜を見るたびに、先生の私たちに対する全力投球が伝わってきます。そして、先生のその姿勢が私の人生にも大きな影響を与えてくださいました。また、私たちのクラスも、先生の目標通りひとつにまとまり、卒業文集「あすなろ」を第1号として、卒業後も第8号まで発行することができました。

私は母校小川小学校で、私たちのために全力投球された先生のことを、今でも強く心に残っています。

思い出の下里分校

高橋 由美子

私にとっての小学校の思い出は、下里分校で過ごした4年間です。

入学式の日、小さな教室の木の机に自分の名前を書いた大きなシールが貼ってあったことを今でも覚えています。大きな桜の木の下で私たち17名の1年生は、入学式の記念写真を撮りました。当時の分校は1年生から4年生まで、全部で60名ほどいたと思います。小さな学校だけれど楽しい毎日を送りました。

勉強もしたのですが、思い出されるのはみんなで田植えをしたことです。どろ人形のようになって田植えをしたこと、鎌をふるって稲刈りをしたこと。どちらの日も真っ青な空が広がっていて、みんなでわいわいと騒ぎながらにぎやかに活動しました。田んぼにたくさんいたイナゴを捕まえて学校へ持ち帰り、当時の校務員だった大野さんが大きなお鍋でイナゴの佃煮を作ってくださいました。それが給食の時に各教室に山盛りになって届きました。イナゴの形がそのままの佃煮を、恐る恐る口に入れたことも懐かしい思い出です。(意外とおいしかったです)

一番のお楽しみは、12月に行われるもちつき大会です。その日は保護者もたくさん参加し、朝からもち米を蒸す香りが学校中に広がり、わくわくしていたことを思い出します。木枯らしが吹いていて寒いけれど、つきたてのおもちはほかほかでやわらかく、たくさん食べました。

今でも時々、下里分校に散歩に行きます。校庭の遊具一つ一つにも思い出があります。初めて跳べたタイヤはこのタイヤだったっけ。初めて逆上がりができた鉄棒はここだった。子どもの数が減り、下里分校が廃校になってしまったことは残念ですが、私の目に映るのは、大勢の子供たちがにぎやかに学んでいた日々です。

小学校時代(竹沢小学校)の思い出

高山 淳一

竹沢小学校6年生だった時の担任は、内藤荘八？先生だった。

いつも児童に自分の頭の白髪を抜かせていた。

天気のいい日の理科の時間「今日は山に行ってキノコを採るぞ」

クラス全員が学校の裏山へ先生と一緒に入っていく。

キノコの生えていそうなところでは、みんな夢中で探した。

食べられるキノコは、先生にあげた。

あの時は、宿直という制度があったので、先生の晩酌のつまみになったのかもしれない。

また、夏の暑い日には、みんなで兜川に入った。相当遠くまで下ったような気がする。

魚を獲ったり、トンボを追いかけたり、今ならマムシがいる。

ガラスのかけらで足を切ったらどうするのか。

管理責任を迫る声が聞こえてくるようだが、体験した自分にとっては、楽しかった小学校の記憶として、しっかりと残っている。

大河小学校の思い出

田中 純子(旧姓田嶋)

昭和35年、私は父や叔父叔母の母校大河小学校へ入学しました。

正門前には前庭と二階建ての立派な校舎、その横に古い平屋の校舎、後ろには2列のこれまた年季のはいった平屋の校舎があり、裏庭の後ろの土手には根古屋線の線路がありました。朝裏庭で遊んでいると蒸気機関車が煙をはいて一往復走り、みんな遊びをやめて手を振ったものです。西側には広いグラウンドがあり、その奥には大河中学校の校舎がありました。ただ、大河小学校・中学校にはプールがなくて夏休みになると数回だけ駅前にあった小川小学校のプールを借りて泳いでいました。仕方なく夏になるとみんな槻川で水泳というより水遊びを楽しんでいました。当時は親が付いてくることはなく、子供だけで遊んでいて、深みもあつただろうに、今思えば大変危険でした。

1964年東京オリンピックが開かれ、その記念に大河生産森林組合の方々のご尽力でプールを作ることになりました。場所は中学校のテニスコートがあつた場所です。そして微力ながら子供たち自身も1日1円募金をすることになりました。確か1ヶ月ごとに30円ほどを集めたように思います。完成すると、小さい子供たちのために浅い所もある立派なプールで、6年生になった私たちは、初めて水泳大会を開くことが出来ました。寺井先生が25メートルプールを息継ぎせずに潜水なさってビックリしたことなどたくさん思い出があります。

夏休みはPTAの方々の見守りで毎日のようにプールに通いました。プールの前には記念碑もできて、その除幕式に呼ばれて紐を引かせていただいた事は今でも心に残っています。

あれから60年も経ち、かつての線路跡の道路からプールを眺めることがあります。私が通った時の建物はなくなりましたが、あのプールがまだある事に感動します。そして「地域の子供たちにプールを」と立ち上がってくださった地元の大人たちの情熱を、次の世代の人たちに伝えていかなければと心から思います。ありがとうございました。

昭和24年4月入学

田端 せつ子(旧小林)

何にも知らない山っ子の私が大河小学校に入学し、多勢いの友達にびっくり。口もきけないし返事も出来ない私が、だんだんなれて仲良くなった。

友達も出来てみんなと一緒に帰りながら、土曜日に親に作ってもらった弁当を根古屋線の線路で食べたりおしゃべりした思い出。

昔は長靴もないし、雨の日はゴム靴でよごれると、足洗場で洗って教室に入った。長い廊下が足あとだらけ、後で廊下をふいたっけ。

笠山がどこから見てもきれいだし、学校から良く見えた。

今は、気の小さかった私が、どこへ出ても平気な80歳になっています。思い出の多い小学校時代でした。

タイトル紙から皆さんへ

匿名希望

私は町議選のポスターを見た時、あっ、この人は同級生の〇〇ちゃんだとすぐわかりました。

しばらく会っていないなくても、どこか小さい時の面影があったからだと思います。同級生っていいもんだな、と思いました。今は学校へ行けない人や、友達との関係で悩んでいる人が多くいますが、いろんな人に話を聞いてもらい、そんな悩みもあったな、と言う人生を送ってほしいとこの年になるとつくづく思います。

1960年代の竹沢小学校の四季

匿名希望

春は野球。木造校舎の間の中庭で野球。木のバットではなく真竹を切って作った手製バットとゴムボールで遊んだ。竹バットでうったゴムボールは楕円形になり飛んで行った。同級生の幾人かは小川西中に入学後、野球部に入部した。同級生が埼玉県中学校野球大会で優勝した。

夏は魚釣り。篠竹を切って作った釣り竿。餌はチョロ。チョロは川岸の石の裏にいる川虫。兜川でハヨ、ニガ、ソウゲン、クチボソ、ギュギュー、フナを釣った。釣った魚は家の池に入れて飼った。飼わない魚は川に逃がした。魚を殺さないことが暗黙の了解だった。

秋は山歩き。竹沢小学校の裏山や金勝山の麓を上級生や同級生と連れ立って歩き回った。山栗、アケビ、キノコを採った。授業後に薪拾いをした。竹沢小学校のストーブは石炭ストーブで、薪を火付けに使った。

冬はベーゴマ。ドラム缶の口にシートを敷いて、その上でベーゴマを回しあった。ベーゴマの後ろに紐を素早く巻きつけて、相手のベーゴマにぶつけるようにベーゴマを回した。紐は水に濡らすか口で舐めて湿らせていた。ベーゴマの後ろ側はやすりで磨いて尖らせていた。ベーゴマの表には王や長嶋の文字が刻まれていた。

塾は竹沢にはなかったようだ。塾で勉強する同級生はいなかったようだ。

学校では勉強をした。学校が終わると遊んだ。よく遊あそべ、よく学べの日々だった。

小川小学校の思い出

甫仮 良枝

私は前橋で生まれ、3歳の時、小川町に来ました。旭町カインズのななめ前の所に。まずしかったので小学生に上がるまで、現リリック前（駅より）コンクリートのかかる前、わずかな水流れる所であそび、学校の校庭でいつも一人であそんでいました。

学校に通ってからは、竹沢、八和田、小川、大河、四地区学校の対抗リレーにいつも出ていました。

年1回町の運動会。飲食。働いている工場など種類別にして、楽しかったです。

講堂もあり、七夕には（舟木一夫）ショーもあり町中がにぎやかで七夕がもり上りました。

中にわには、池があり奥には給食室もあり、昼ごろになるといいにおいがしてきました。私が3年ぐらいの時に始まり、それまでは個人で弁当を持ってきました。

図書室にはカッコ良い先生？がいて男の人でした。本を読まない私でも毎週いき、かりてしっかり本を読んでいた。

家の前の学校でしたので、夕方まで走ったり鉄棒したりしてあそんでいた。

なつかしいです。

八和田小学校の運動会の歌「青葉の笛」

細井 富夫

私が在校した頃の八和田小学校の運動会では、午後の部の早い時間帯になると、スピーカーから流れる歌があった。

「青葉の笛」である。

しかも、おばさんの集団による踊り付きである。

運動会を盛り上げる為の、婦人会（老人会）の方々の演舞であろう。

小学生の私には、記憶に残る異様に見えたシーンであった。

在校6年間の運動会において、この演目は慣例的に行われていたと記憶している。

私の頭の中に、歌詞とメロディーが完全に刷り込まれた。

当時の私は、これを「運動会の歌」だと位置づけていた。

小学校を卒業すると「青春の笛」は、頭の中から完全に消えた。

再び蘇る時は、平成7年（1995年）に発生した阪神淡路大震災である。

震災から一週間程立った時、以前納品した機器の被害状況の確認の為に神戸へ向かった。

電車は途中までしか行けず、残りは臨時バスに乗り換えた。

途中で「須磨」という所を通った。

何処かで聞いた事がある地名だと思った。

その後、TVでも「須磨」の状況が放映された。

やがて、運動会の歌の1フレーズだと気が付く。

「あのあたりが『一の谷の合戦場』の跡か！」と思っただけで終わる。

当時は仕事が忙しかった。

再度蘇るのは、昨年大河ドラマ「鎌倉殿の13人」を見ていた時である。

「一の谷の合戦」のシーンが放送されていた時、ふと思い出した。

ユーチューブで「青葉の笛」を検索すると動画がヒットした。

記憶では、小学校6年生の運動会以来始めて聞いた。

改めて聞くと、歌詞もメロディーも心に響く。

単なる運動会の歌では無かった。

余りにも月日が流れたので、当時の先生の名前や顔は思い出せない。

今にして思えば、「当時の先生方の確固たる教育方針の基に選曲された演舞であった」と

〈先生方の目的は〉

小川近郊（熊谷市）の鎌倉武士・熊谷次郎直実の存在と、戦争がもたらす悲劇を私達

に伝えたかったのであろう。

残念ながら今は古希目前になるまで、当時の先生方の意図を汲み取る気持ちさえも無かった。

単なる作文に著作権は関係ないと思うので、以下に「青春の笛」の歌詞を示す。

②番まである歌である。

〈①番の詞〉

①番は完全に覚えている。

熊谷市を拠点としていた鎌倉武士・熊谷次郎直実と平家の公家・平敦盛との逸話である。

一の谷の 軍破れ
討たれし平家の 公達あわれ
暁寒き 須磨の嵐に
聞こえしはこれか 青葉の笛

〈②番の歌〉

②番は全く記憶が無かった。

平家の武将「平忠度(ただのり)の死に際しての、和歌に対する思いの逸話である。

年齢を重ねると私も生意気になり、貴族化した平家は、所詮は関東武士の敵ではなかったと思ったりもする。

いずれにしろ、小学生には理解出来なかったので記憶が無い。

更くる夜半に 門を敲き
わが師に託せし 言の葉あわれ
いまわの際まで 持ちし箆に
残れるは 花や今宵の歌

〈以上〉

小学校生活での思い出

松本 恒夫

昭和29年4月に入学した母校の小川小学校の校門をくぐり抜けると大きな体をした6年生がドッジボールをしていた。余りにも、その力強さと迫力に圧倒され、怖ささえ感じ隅を通ったものでした。自身が6年生になると今度は下級生の面倒などを見るようになり、それこそ1年生がとても小さく見えました。

6年生になるとたくさんの学校行事があります。その中でも修学旅行は最高のイベントでした。6台のバスに分乗し出発しましたが、途中の東松山市の河川の土手から1台のバスが転落しケガ人が出ましたが、校医の瀬川先生が駆けつけ、その英断により旅行は続行することができました。

江の島鎌倉を巡り大仏を見上げ、そして、江の島の旅館に着くとそれぞれが家から持参した食事用のお米を帳場に出しました。

夜になるとクラスごと男女別に大きな部屋に通され、就寝消灯の時間となりましたが、暗い中で誰かが枕を投げつけるとたちまち枕投げが始まり、担任の先生が来て「静かに寝なさい」と叱られました。それでも聞き慣れない寄せる波の音でなかなか寝つけませんでした。

高学年になると学校の講堂（現在の体育館）を使い、クラスごとに演芸会を催しました。あるクラスのコーラスではその歌声に聞き入り、また他のクラスは浦島太郎を演じました。乙姫様とのやりとりや最後に玉手箱を開け、アッという間に白髪の老人になるというものです。

そしていよいよ私達のクラスの出番となりました。演題は「タイムマシン」です。最初にマシンを発明した偉い博士が光る頭に白衣（学校の先生に借りた）を着て、腹には詰めモノを入れて登場。尤もらしい説明を始めると場内からは「ホントかヨー」などのヤジが飛び、大笑いとなりました。原始時代の場面では、まだお金の無い時代なので物の売り買いは物々交換なのです。何と成立するとお互いの肩をたたき合い、これが本当のブツブツ交換でした。場内はドッと沸きました。次は侍の登場です。通行中に刀の鞘があたったことによりチャンバラが始まりました。勝負がつかず引き分けとなりました。最後の場面では出演者の全員が揃い現代へと戻り、いつもの生活や人々の往来となりメデタシ、メデタシとなり楽しい心に残る演芸会でした。

このように令和の現在とは遥に異なる時代でしたが、今でも時々思い出すと苦もあり楽しくもあった懐かしいノンビリとした良き小学校時代を過ごしたものです。

本校の大河小学校へ通うようになって

宮坂 初恵

私は、青山分校の出身です。分校は一年生と二年生で二年間通い、三年生になるといよいよ本校の大河小学校へ通うこととなります。当時、私の母親や大人達が「少々遠く時間がかかり、この子達、大丈夫かなあ・・・」と口々に心配の声がしたのを覚えています。

子どもの足で五十分弱という時間の道のりは、今考えると体力のない子の心配もしていたのでしょう。でも私は、苦ではなかったとはっきり言えます。

冬になると近所の木工所で毎朝外で火をたいていて、ちょっと寄り、手袋をしている両手をあたため、顔まで赤くぼかぼかになり、通学班で学校へ。

雪の日は、班長さんから十分とか十五分とか少し早目の集合がかかり、途中真白く広い足跡のないような田畑に入って雪合戦をしながら学校へ向かったりと。今の時代ではありえないことでしょう。

本校に通うようになって、当時はとてもうれしく、お姉さん気分になったことを今でも心に残っている思い出です。

小川町立小川小学校での心に残っている先生

持田 実

私は小川町立小川小学校に昭和30年度に入学、昭和36年度に卒業しました。

当時の学校は現在の小川町役場の所在地にありました。

1、2年生時は陸名りゅうえ先生、3年生時は塚越百合子先生、4年生時は白井芳枝先生、5年生時は青木秀先生、6年生時は横瀬悦子先生と5人の先生に担任して戴きお世話になりました。

とりわけ、2年生の5月のほろ苦い出来事が思い出されます。

何時間目かの休み時間に、「学校の裏側にあったK君の家へ、K君の忘れ物を取りに友人何人かで行きその折、傍らの古材に上向きに刺さっていた長い錆釘を運動靴の上から左足裏に「ブスッ」と深く踏み刺してしまいました。

応急処置したものの、後日化膿してしまいS病院で手術、その手術痕は現在でも残っています。

術後の数日間は欠席、軽快を待って登校、家から学校までは至近であり毎日、母に背織られて登下校はしていたものの、学校内での行動には何かと支障が生じてました。

休み時間の度に、担任の陸名先生が声をかけてくれ、トイレ使用時には先生に背負ってもらっておりました。

当時、トイレは校舎東側の講堂北裏にあり、教室からは遠くにあり、校舎内の廊下や渡り廊下を通して背負われ、嬉しかった気持ちもありましたが半面、友人達の眼が気になり恥ずかしい思いが先でした。

足裏の手術痕を見るたびに当時のことと、陸名先生の背中の中暖かかったことを今でもはっきりと記憶しております。

陸名りゅうえ先生に改めて

(ありがとうございました。その節は大変お世話になりました。)

と心から感謝とお礼を申しあげます。

末尾に、このような機会を企画して戴きました関係各位に感謝申しあげます。

地域文集「むぎぶえ」の価値と意義

山口 謙一

筆記用具を持って書くという活動が減少しています。それに伴ってか、児童生徒の書く力に課題があるという報告が各種調査等から発信されています。

私が小学校に在学していた昭和40年代の竹沢小学校には、作文の時間がありました。教科書を読んだりせず、ひたすら作文を書く時間です。5枚・・・10枚・・・と原稿用紙を書き重ねる数を友と競ったりしていました。

その頃の小中学校には、毎年学年ごとに比企地区の全小中学校の代表の作文や詩等を掲載した地域文集「むぎぶえ（麦笛）」が発行されていました。私の作文も何度か掲載され、幾分気恥ずかしくもあり、誇らしくもあったことを今でも覚えています。

奇しくも、私は公立小学校の教員となり「むぎぶえ」の編集に携わるようになりました。昭和の終わりころのことです。平成に入り「むぎぶえ」の存続について話題に上ることが多くなってきました。作品の選定から始まり、巻頭作文の解説、編成・校正等の編集作業を、各地区から参集された編集委員が学校の用務のほかに行わなくてはならないため、負担に感じられるようになってきたのでしょう。また、予算化されていなかったために、一部の児童生徒の作文が掲載されているにも関わらず全児童生徒から集金することに関しての意見も出されていました。さらに、毎年持ち回りで「むぎぶえ」を授業に活用する公開授業を行わなくてはならないことも負担を増大させていたのかもしれない。

議論を重ねた結果、「むぎぶえ」は、廃刊となりました。廃刊となり何十年も経ち、「むぎぶえ」の存在を知る年代の方も少なくなっていることでしょう。それでも、現存する「むぎぶえ」には当時の児童生徒の作文力の状況を示すとともに、そのころの生活の様子や児童生徒の思いや願いを知ることのできる歴史的資料としての価値もあることと考えます。

小川小学校 器楽部の思い出

山下 景子

昭和45年度の卒業生です。

器楽部という有志の課外クラブがありました。成立の経緯はわかりませんが、4年生になったら、器楽部に入っているいろいろな楽器を演奏したいなと思っていました。当時は高価なアコーディオンや大きな打楽器がまぶしく見えてました。(成人式のお祝いで演奏を披露したのは、「青い山脈」小学生でそんな曲に親しんで演奏までしていたのですから・・・憧れです)

そして、3年目。6年生の時、私たちは「TBS子ども音楽コンクール」で初めて東日本大会で入賞します。それは、自慢できる好成績です。

その代わり、夏休みは毎日、プールと器楽部の練習で学校で1日過ごしていました。(その頃は、夏休みの終わりに、小川班の小学校対抗の水泳大会もありましたから。その練習もスイミングクラブの選手育成コースのようでした。)

2学期が始まってからは、夜7時位までは練習していました。(その後の後輩たちは、さらに遅くまで練習していたと思います。)今は、もう故人となってしまった吉野武治先生が指揮者となって、熱くタクトを振っていました。

その東日本決勝大会のステージで演奏する私の木琴の音が今でも宝物です。みんなの音が耳に届かず私だけの音しか聞こえませんでした。みんなの演奏と合っているのか分からないけれどいつものように、指揮に合わせて演奏していました。(入賞したのですから合っていたはずです。)教科以外の仕事に精力を使ってくださった先生方の情熱は、私の心の中に残り火として残っています。遅くまで練習している子どもたちのために届けられたパンの味と帰りの通学路の途中の肉屋さんでもらって食べたコロケの味も忘れられません。皆さんに支えられていた活動でした。

その後、私は教員となり、その感動を伝えることができたらと考え、可能な限り、ステージで演奏を発表する機会を作りました。私が指揮をすることができたのも小学校時代のその経験があったからです。私も子どもたちに音楽の良さを伝えられて、未来へとつながっていたらうれしいです。

小川小学校 ありがとうございます。

あぶ先生とコロツケ

吉田 弘

俺は1944年10月小川町下古寺の農家の三男として生まれた。当時小川町では、絹織物の小さな町工場が点在しており、朝早くから夜遅くまでガシャガシャと裏絹を織った。家には豊田式自動織機が10台あり、その他周辺機械やら様々な機械からけたたましい音が終日していた。工場では両親、長兄、長姉のほか、秩父方面から若い女子工が数人来て働いていた。畑では麦、小麦、さつまいも、かぼちゃ、田んぼでは米を作り、家の中では子供を育て、家畜では牛、やぎ、にわとり、うさぎ、猫、犬を飼い、大変な騒ぎだった。

1950年大河小学校古寺分教場に入學した。分教場には1年生と2年生が通っていて、全部で20名ほどだった。教室はひとつだったので、2年生と半分ずつ、黒板も半分ずつだった。先生も岩淵茂男先生ひとり。ほかに、近所からまかないの女性が来ていた。

3年生になると本校の大河小学校に通った。1953年4月、俺が4年生になってすぐ忘れることのない思い出深いことが起きた。

俺の隣の席に居る野沢が「吉田、先生が呼んでるよ」と声をかけてきた。

「なぜ」「知らないよ」「早く行けよ」「俺は先生に呼ばれるようなことはしていない」「いいから行けよ」

俺は、4時限目が終わり腹は空いてるし、弁当の時間がやっと来たのに、と思いをながら職員室に向かった。

先生のところに行き、「ハイ」と返事をする、先生は「吉田君、先生の弁当のおかずを買ってきて」と言って30円渡してきた。続けて、「講堂の前の大森肉屋さんで、コロツケ3個、ソースをかけてくださいと言うのよ。先生は職員室に居るからね。ひとつは吉田君が食べていいよ」と言われた。「ハイ」と言っただけで、俺がコロツケを買いに行く？なぜ？と思った。第一コロツケがどんなものか知らないし、その先生の名前も覚えていなかった。教室に戻って野沢に先生の名前の名前を教えてもらった。

「野沢、先生の名前はなんと言う？」

「森村先生だよ。『あぶ』って呼ばれてる。」

「要件はなんだった？」

「弁当のおかずのコロツケを買って来いって、30円渡されたよ。大森肉屋ってどこにある？」

「大森肉屋を知らないのか？講堂の道路のむこうだよ。早く言って来いよ、弁当食べる時間がなくなるぞ」

それを聞いて、大変だと駆けだした。

大森肉屋の前には、他の先生や児童が数人順番待ちをしていた。俺の番が来て、

「コロツケ3個、ソース付けて」と言うと、店主に「森村先生のか？」と聞かれた。

「そうです」と答えると、店主はコロツケなる物を二つと一つに分けて、竹ひげ（竹の皮）に包んで渡してくれた。

それを急いで職員室に届け、全部先生に渡すと、先生は一個包みの方を「ハイ、食べなさい」と言って俺に差し出した。俺は肉屋に言って包んでもらったように思われたような気がして、「俺はいいです」と言うと、先生は「店の方が包んでくれたのでしょうか。吉田君が食べなさい」と言って渡してくれた。その時、あ、この先生どこかで見たなと思った。加えて野沢の言った『あぶ』という呼び名にも聞き覚えがあるような気がしたが、結局思い出すことができないまま教室に向かった。

教室に入り、コロッケを一口食べた。「美味しい」食べたことのない美味しさだった。森村静江先生、一発で覚えた。「吉田君、今日はメンチカツにして」声がいい。背は高くなく、丸顔で少し太っていて、優しい目に優しい顔をした人だ。なぜあの先生が自分を知っているのか、不思議に思った。そして、なぜ森村先生が『あぶ』なのか。野澤に聞いてみたがわからなかった。先生が『あぶ』と呼ばれるのは嫌だと思った。

次の4時限目の先生の時間がすぐに来た。俺はその日も「コロッケ買ってきて」と言われるのを心待ちにした。授業が終わった時、「吉田君」と呼ばれた。嬉しくなった。思った通りコロッケだ。「ハイ」と返事をし、コロッケを買って職員室に届けた。先生に渡す時、不思議に思っていたことを思い切って聞いてみた。

「先生、どうして俺にコロッケを買いに行かせるのですか」

「吉田君は私のことを知らないみたいね」

「見覚えはあるのですが、いくら考えても思いつきません」

「先生はね、吉田君のお父さんお母さんに、みよちゃん、信子ちゃん、トキちゃん、おばあちゃん、おじいちゃん、皆よく知っているよ」

「あ、そうか」俺は気づいた。先生が続ける。「毎年家庭訪問しているから」

姉たちが家で言っている『あぶ先生』。『あぶ』は悪口ではなく、親しみが込められた愛称だったのだ。俺に分らなはずだ。先生はさらに言う。

「私はね、家庭訪問で古寺を回る時は上古寺から回るの。下古寺の吉田君の家が最後なのよ。先生が行くと、お父さんが先生の自転車の荷台に野菜や何かたくさん積んでくれるの。吉田君の家には前菜物は何でもあるから」

「先生、分かりました。すみませんでした」

「分かりましたか。コロッケを買いに行くのは嫌ですか？」

「そんなことはありません」

森村先生は、俺の家が行商以外からは食材を買っていないことを知っていた。それ以来、俺は4時限目が終わると先生の所に行き、コロッケかメンチカツか聞くだけでお使いができるようになった。野沢はちゃっかりコロッケ半分をせしめるようになった。

森村先生の思い出を探していて、それが子供の時代の俺にとって、とても大切な時間だと気づいた。自分が至福の時の中にいることを教えてくれた森村静江先生に感謝したい。

さて、松本前町長、教育長、西中学校長、町議会議員の方々が、私のアトリエ「遠朋庵」に来ていただき、西中学校と大河小学校に私の油彩画が常設され、子どもたちの目に触れられていることに大変な榮譽を頂戴していることに感謝いたしております。

令和五年十月十三日 吉田 弘 七十九歳

【 編集について 】

お寄せいただいた原稿に基づき
記載させて頂きましたが、編集上
の統一等を図るため、レイアウト
誤記、人権上の配慮などにより、
原文と異なる表現、表記をさせて
頂きましたので、ご理解のほど
お願いいたします。

発行日／令和6年1月

発行／小川町・小川町教育委員会

〒355-0392 埼玉県比企郡小川町大字大塚 55 番地

TEL 0493-72-1221 (代表)

URL <http://www.town.ogawa.saitama.jp> (小川町公式ホームページより)